

2015



(第 30 号)



平成 27 年 3 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 諏訪 吉春
編集者 吉野 聡

谷内 剛方
E-Mail cib@jac.or.jp

早春の南房総で四支部懇談会 雪の伊豆大島もすぐそこに



8 回目を迎えた千葉、茨城、栃木、群馬の合同懇親会が 2 月 7～8 日、館山市西川名のホテル川端を会場に開かれた。37 人が参加した。目の前には伊豆大島やピラミッド形の利島といった伊豆七島の島々が浮かび、伊豆半島もうっすら見えた。三原山は雪で真っ白。「数日前に降ったんだよ」と、漁港で寒天の材料となるテングサを干していたおばちゃんが話してくれた。懇談会の中で来賓の森武昭・日本山岳会会長が「若い人は山に行きたがっている。そのためには、困難に立ち向かう山岳会の良き伝統とともにすそ野を広げる努力も必要だ。若い人、これから山に登りたいという初心者たちを受け入れられるようなクラブを作るため、首都圏にある 4 支部のみなさんの活発な活動を期待する」とあいさつ。



この後、各支部の活動報告があり、講演会では千葉支部が 3 年半をかけて実施した房総半島の分水嶺踏査について山口文嗣山行委員長が報告し、さらに「今は房総半島の郡界尾根を踏査中。今後は利根川や江戸川を遡るようなことにも挑戦していきたい」と支部活動を紹介した。翌日は房大山登山コース、お花畑見学コースに分かれ、早春の南房総を満喫した。(三木雄三)

＝関連記事、千葉支部の参加者は 2 面に掲載＝

(房大山登山コース)

東京湾と太平洋の雄大な展望を堪能

房大山は房総半島分水嶺踏査の最終目標となった山で山頂から分水嶺はほぼ一気に洲崎海岸に降りていく。低気圧が近づき雨が心配されたが、宿の人に「今日は午前中なら大丈夫ですよ」と声をかけられ、山行グループ 22 人は房大山に向かった。

8 時 15 分登山開始。南側の根本集落から頂上の一等三角点を目指し、北側の坂田地区に抜けるコース。まず南房総特有の竹林の中を登り、しばらく行くとマテバシイ中心とした樹林帯。

10 時前に頂上到着。眼下には鏡が浦（東京湾）と太平洋、その向こうに伊豆大島を望む雄大な展望を堪能することが出来た。しばらく景色を楽しんだ後全員で一等三角点の標識を中心に記念写真を撮る。

下山途中雨が降り出したが大した雨にはならなかった。ただ、従前からぬれていた道が滑りやすく慎重に進む。

民間旅行社の登山ツアーに遭遇、20 人位の一行が元気よく登って行った。

10 時 40 分全員下山し坂田海岸に出る。そこに弁当屋さんが待望のくじら弁当を配達してくれた。



(お花畑見学コース)

花摘みに歓声



お花畑見学コースには 11 人が参加。ホテルから専用バスで平砂浦にある館山ファミリーパークへと移動した。車窓右手は太平洋の荒波。強い風の影響で波がしらが白く飛び散る。左手はまるでカリフラワーのようなマテバシイに覆われた分水嶺の突端部の景色が広がった。

園内に入場すると、黄色やオレンジ色のポピー畑だ。「ポピーの里」と言われるだけあって、そのスケールの広さに驚かされた。

花摘みも出来、「つぼみの大きなものを選んでください」を係員から説明を受けると、はさみを借りてキンギョソウやストックといった春の花を両手に抱えるほど摘んでいた。

千葉支部の参加者： 青木次郎、宇津木仁典、大浦陽子、小澤けい子、梶田義弘、金子有美子、君塚紫、坂上光恵、鈴木美代、諏訪吉春、高橋琢子、谷内剛、津田麗子、三木雄三、柳下忠義、柳川しげよ、山口文嗣、山崎完治、湯下正子、吉永英明、吉野聡（敬称略）

平成 26 年度年次晩餐会

大澤雅彦氏に秩父宮記念山岳賞

平成 26 年度の年次晩餐会が皇太子殿下もご臨席のもと 12 月 6 日（土）東京・新宿の京王プラザホテルで開催された。広い会場は全国から集まった山岳会員で埋め尽くされた。千葉支部からは、新会員の柳川しげよさん始め 25 名の会員が参加し「山の日」制定を祝うとともに全国の仲間と交流を深めた。

今年の晩餐会で特筆すべきことは、千葉支部が推薦した大澤雅彦氏（千葉支部所属）が第 16 回秩父宮記念山岳賞を受賞し、その表彰が行われたことだ。秩父宮記念文化賞は山についてご造詣の深かった秩父宮殿下及び同妃殿下の事跡を長く記念するため、山に関連する顕著な活動又は業績に対して送られるもので、表彰は日本山岳会年次晩餐会で行われている。

大澤氏の業績は「湿潤アジア山岳の垂直分布帯の成立と保全に関する生態学的研究」で、ネパールヒマラヤ、東南アジアさらにはブータン、中国南西部の学術調査を繰り返し、熱帯山岳からヒマラヤ以南の植生帯は、ヒマラヤ付近に構造的ギャップがあり、以北の温帯山岳の植生帯と大きく異なること等を明らかにしてきたものである。

会場では千葉支部のメンバーが大澤氏のもとに集まり、受賞を祝福しその喜びを分かち合った。

諏訪吉春千葉支部長の話「大澤会員が秩父宮記念山岳賞を受賞されたことを心からお喜び申し上げます。千葉支部としても大変は名誉なことで誇りに思います」

（吉野聡）



大澤雅彦氏の略歴

1992 年千葉大学理学部教授
2000 年東京大学大学院教授
2009 年中国雲南大学名誉教授
公益社団法人日本山岳会会員
千葉大学学士山岳会会員

喜びの大澤雅彦氏（右から 6 番目）を囲む千葉支部のメンバー

参加者：石岡慎介、石原達夫、大澤雅彦、小澤けい子、神山良雄、坂上光恵、佐藤明夫、塩澤厚、篠崎仁、諏訪吉春、節田重節、高橋琢子、谷内剛、津田麗子、土屋満、堂本暁子、中島純忠、原島正樹、南井英弘、柳川しげよ、山口文嗣、山本哲夫、結城純一、湯下正子、吉永英明。

郡界尾根踏査の報告

郡界尾根は上総と安房を隔て、東京湾の明鐘岬から鋸山、三郡山、安房高山、元清澄山を経ておせんころがしと鯛の浦の間で太平洋に至る約 60 キロの山並み。千葉支部では、冬季に概ね 2 年をかけて踏査することを計画しました。本号からその模様を順次報告します。

第 1 回 平成 26 年 11 月 29 日(土)

雲行の怪しい空のもと踏査隊一行 16 人は雨支度を整えた。

まずはスタートの明鐘岬に向かう。岬に近づくにつれ風が強くなり吹き飛ばされそうだ。突端には吉永小百合主演の「不思議な岬の物語」の舞台となっている小さなカフェ「岬」があり、この風にもかかわらず満席の盛況。



鋸山には当初ロープウエーの使用を予定したが強風のため休止、車力道コースを選び登山開始。山から切出された房州石を女性が荷車に積み運び出していたこの道、足元を見ると轍の跡がくっきりと刻まれている。往時の人たちの力強さに参加者から「すごいねー」と声上がる。

樹林帯の道をひたすら進み一等三角点のある鋸山山頂(329.5 メートル)に到着。見通しは悪いが、房総の山々が雲の合間から薄っすらと重なって見えて、晴れた時とまた違った景観を醸している。集合写真を撮り早々に今日の終点である林道口を目指す。最後まで雨は降り続いたが無事に第 1 回目の踏査を終えた。



帰りがけ「こんな雨の日の山行、一生記憶に残るね」「それはそれで楽しいんじゃない」と話が弾んだ踏査のスタートだ。

(吉野聡)

コース： 明鐘岬→鋸山頂上→林道口

参加者： 山口文嗣 (L)、三木雄三 (SL)、岩尾富士夫 (SL)、小澤けい子、梶田義弘、梶田天兵、坂上光恵、鈴木美代、鈴木さと子、鈴木規悦、諏訪吉春、高橋琢子、柳川しげよ、山崎完治、湯下正子、吉野聡。



第2回 平成26年12月21日(日)



2回目は郡界尾根を横切る林道金谷元名線の林道口からの郡界尾根歩きとなる。

林道口にはとても小さく「郡界尾根」と看板があり、その下の方にこれまた小さく「危険注意」とあった。目印のテープやトラロープがあり、時々地図とコンパスで確認をしながら進む。切れ落ちた岩場のある尾根道があったり、トラロープが張ってあるところを降りたり登ったり一人ひとり慎重に歩く。

何度もこのような所を繰り返しながら行くと前方に風に揺られている目印のテープが見えたがそこが小鋸山の頂上だ。その頂上までは両方切れ落ちた尾根のアップダウンを慎重に行く。



頂上の岩場で昼食、その後下山するコースを見失うが直ぐにテープを発見して下る。これまたロープのある急な下りを慎重に降りた。

白狐峠と言われている広々とした場所に出た。ここはまた岩石採取場跡地で痛々しい山の姿があり、何とも言えない気持ちになりながらバス停まで林道を下った。

(小澤けい子)

コース：林道口→小鋸山→白狐峠

参加者：山口文嗣 (L)、三木雄三 (SL)、
岩尾富士夫 (SL)、山崎完治、柳川しげよ、
小澤けい子。

第3回 平成27年1月24日(土)

保田駅からタクシーに分乗して白狐峠下の岩石採取場跡地に向かう。むき出しの岩肌の山々に囲まれた異様な景観だ。



最初のピークに取りつくのが、急な斜面とバラの棘に阻まれ時間を取られる。風もなくコンディションは良いのだが、一昨日までの雨で道が滑りやすいので全員慎重に進む。昼食をとりしばらく進むと展望が開け、鋸山の向こう遙か遠くに大島や天城山を見ることが出来た。分岐となるピークに着くと、山口リーダーから地図とコンパスを使って自分の進行方向をよく確認し進むよう指示が出された。

水仙ピーク登り口に近づくと早咲きの水仙を目当ての登山客と多数行き交う。我々も満開の水仙を楽しみながら下貫沢へ下山した。

(吉野聡)



コース：白狐峠→嵯峨山水仙ピーク登り口

参加者：山口文嗣 (L)、三木雄三 (SL)、
岩尾富士夫 (SL)、柳川しげよ、湯下正子、
小澤けい子、高橋正彦、高橋琢子、吉野聡。

大坪山新年山行に参加して

湯下正子

大坪山の新年山行に参加した。千葉発 7:45 の館山行き電車に乗り大貫駅で下車。大坪山へと向かった。快晴に恵まれ東京湾越しに見る大きな富士山。左側に伊豆大島、右手には箱根の山々と丹沢の山並み、対岸の三浦半島。雪の富士山と海の青さに感激。弁天山古墳を見学し、大きな石棺を見て、この地が古代には繁栄していたことを教えられた。

大貫漁港から磯根浅間山に登り、浅間神社の奥宮にある富士塚の前で「各地にある富士塚は富士山信仰として地域ごとに講が作られたことに由来する。富士塚とは①山の上に浅間神社ある②合目を表す石があること③小御嶽神社がある…などの条件が必要である」と説明があった。今まで何も



気にせず見過ごしていた富士塚も、これからしっかり見るための知識を教えてもらった。浅間神社から下って又登り、藪こぎの中で高山三角点に到達。「こんな所に」と思うよう

なところに三角点があった。ここでは山口さんから地図と磁石の重要性の説明を受けた。リーダーまかせの登山は危険という事を言いたかったのだと深く反省した。その後、細竹の笹に顔をバサバサ殴られながら大坪山へ。三木さんの説明だと、強い西風にさらされている大坪山一体は「風衝草



原」と呼ばれ、その為に固有の植物があり、その代表格がマルバシャリンバイ（丸葉車輪梅）。登山道に多く見られた。葉の先が丸く肉厚で車輪のように円形に葉がついている。6 月頃には白い可憐な花が咲くという。

最後に東京湾観音の裏手から登って、東京湾観音下の公園で昼食。海の青さと雄大な富士山がなんとも美しく、皆大喜び。

帰りは佐貫町駅で乗車して八幡宿駅に下車し、飯香岡八幡宮境内の浅間神社富士塚に寄る。本物の溶岩を運んで作られたもので見事な富士塚だった。午前中教わった富士塚の条件も満たされていることも確認できた。千葉県内には約 450 ケ所の富士塚・浅間神社があるが、半分は市原・木更津地域と南房総地方に存在し、野田、流山にも大きい富士塚があるという。この地方の富士山信仰が盛んだったことを教えられた。

期 日：平成 27 年 1 月 10 日（土）

参加者：山口文嗣（L）、三木雄三（SL）、岩尾富士夫、小澤けい子、梶田義弘、梶田鉄平、坂上光恵、櫻田直克、諏訪吉春、廣村恵美子、吹野義弘、舩木元、柳下忠義、山崎完治、湯下正子、吉永英明、吉野聡。

歴史と鳥の手賀沼散策

吹野義憲



午前9時30分 JR 我孫子駅に14名が集合。早速、湯下リーダーのガイドにより市内散策が始まった。「我孫子散策ガイドマップ」を片手に位置を確認しながら歩く。

最初に訪れたのは住宅地の中にある杉村楚人冠邸園。入口周辺には多様な種類のツバキが咲いていて私たちを迎えてくれた。杉村楚人冠は、明治末期から昭和前期の東京朝日新聞で活躍したジャーナリストで先進的な新聞人であった。斜面にある邸園は、母屋と茶室、離れがあり、建物は時代を感じる造りだ。広い庭を抜け丘に登ると楚人冠公園で、この丘から手賀沼を見ることができる。

次に訪れた志賀直哉邸跡は木がうっそうと茂る敷地の中にあった。志賀は、大正4年から7年半、柳宗悦の勧めで我孫子に住み、武者小路実篤や多くの文人と交流したといわれる。ここには、当時の書斎を復元した建物があつた。歴史散歩はここで終わり、湯下リーダーお薦めの「かつ井」をスーパーでピックアップし、「道の駅しょうなん」を

目指した。道の駅に着くとメンバーは焼き芋を食べたり、あるいは大福を買ったりと忙しい。小休止が終わりここからが本番だ。初めて歩く手賀沼はとても新鮮にみえる。よく整備された遊歩道を歩き始める。ここはロードバイクをはじめ、ジョギングなど市民が思いおもいに楽しんでいる。私もロードバイクを持っているので、今度は自転車を持ち込んでみたいと思った。やがて左手に筑波山が見えてきた。湯下リーダーの話によると、この周辺の学校は、校歌に必ず筑波山が入っているとのことだった。予定通り昼食会場の五本松公園へ着いた。私はもうへろへろである。さあ、お楽



しみのかつ井だ。「結構いけるね」。メンバーから次々声があがる。「やっぱり来てよかったね」。

ここが折り返しとなった。滝下広場を過ぎると沼岸に出た。このあたりに来ると水鳥が目立つ。もう歩くのはいやだと思いはじめた頃、鳥の博物館に着いた。館内では多くの鳥たちの説明に耳を傾けた。午後3時、今日の旅は終わった。続いて反省会だ。「コ・ビアン」というイタメシ中心の店だ。この店は味もよく、料金も安いことから評判の店らしい。我々はビールで乾杯し、その後ワインやウイスキーなどを飲みながら交流を深めるとともに、次回の企画に花が咲いた。このような楽しい山行に、より多くの皆さんの参加をお勧めします。

期 日： 平成27年1月17日（日）

参加者：湯下正子（L）、大浦陽子、梶田義弘、金子有美子、川島辰夫、黒田正雄、香高真奈美、坂上光恵、高橋琢子、吹野義憲、柳川しげよ、山崎完治、山口文嗣、吉野聡。

陣馬山へ晴香園の子どもたちと

高橋琢子

公益活動の一環として、松戸市にある「晴香園」の子どもたちと陣馬山を目指した。

週初めの雨が、山では雪かも？！の心配のなか「山は行ってみなければわからない」を子どもたちと一緒に勉強するため、高尾山北口から陣馬高原下までバスに乗った。お天気も良く、子どもたちも楽しそう。

9 時 35 分、和田峠に向けて登山開始。ただ、凍結や積雪の危険を避けて車道を進む。



10 時 50 分、全員峠に到着。道にこそ雪はないものの周りは雪の世界だ。峠に下ってきた登山者たちは「凍結している。スニーカーで登るのは危険だ！」の声。途中まで登ってみた柳下さんが「やっぱり危ない」と判断し、登頂を断念した。



子どもたちにとって、直下まで来て登頂しないことは初めての経験だったが、気分を切り換えて雪合戦や滑り台作り、リーダーの小澤さんが準備したお汁粉作りをして楽しく過ごした。

12 時 15 分、陣馬山頂上の馬の像に心を残し、和田峠を後にした。

数日後、晴香園の職員小山さんより、『先日は大変お世話になりました。以下、子どもたちの声をまとめたものです。』

- ▶雪でたくさん遊べてうれしかった！
- ▶頂上まで行って馬が見たかった。もう一回行きたいです。
- ▶途中から見える景色もすごくきれいだったから、山頂の景色はもっとすごいと思う。
- ▶寒かったけど、お汁粉があったかくておいしかったです。
- ▶いっぱい優しくしてもらい、仲良くなれてうれしかったです。
- ▶最後まで登れなくて悲しかったです。でもすごく楽しかったです。
- ▶すれ違う自転車のお兄さんたちをみんなで応援するのが楽しかった。
- ▶山で食べるお弁当はいつもすごくおいしい！
- ▶もっといろんな山に登りたいです。

登頂できなかったことは残念でしたが、子どもたちからは充実した声が多く上がりました。これも、皆様のご協力のお蔭です。たくさんのご配慮ありがとうございました。クラブ一同、次の機会を今から心待ちにしております』というメールが届いた。

期 日：平成 27 年 2 月 21 日（土）

参加者： 春香園 生徒 6 名、職員 2 名

小澤けい子（L）、柳下忠義（S L）、川島辰夫、香高真奈美、佐藤啓之、鈴木美代、高橋琢子、湯下正子。

こんにちは

新入会員・会友のコーナー

荒 船 山

鈴木さと子

新入会友の鈴木さと子です。山武市在住です。
11月15日の荒船山登山に会友になって初めて参加させていただきました。登山経験のほとんどない私は、不安と緊張が連続しての参加でした。

千葉三越前から貸切りバスに乗り、上越自動車道に乗りました。富岡を過ぎ、妙義山が見えてきました。間近に妙義山を見たのは初めて。骸骨のような奇妙な姿の山容に目が離せません。

三木さんから、西上州の山の成りたちの説明があり、自然の凄さと太古の歴史に驚きを禁じえません。

八風山トンネルを越えると、もうすぐ佐久です。佐久から神津牧場へと向かいます。その神津牧場で昼食をとり、今宵の宿「初谷温泉」に向かいました。落ち葉を踏みしめながら山を登ると荒船山が見え、その大きな姿に圧倒されてしまいました。

初谷温泉はとても気持ちの良い温泉で、佐久の名物コイのあらいや甘露煮を味わいました。

翌朝、いざ荒船山です。霜柱があり、緊張しました。私は風景を見る余裕などなく、ただ黙々と歩くばかり。時折、皆さんが見える山の説明をしていたようですが、私にはただ白い山しか見えません。「いつか山の名前を覚えるぞ」。



今回、一番感動したのは霧氷です。山頂ではサラサラと降ってきて、映画『アナと雪の女王』のワンシーンのような、虹色に輝く霧氷は素晴らしいかったです。

三木さんの説明で「垂り(しずり)」というのだそうですが、日本語の表現は美しいです。

今回参加させていただき、ご一緒させていただいた会員の皆さまには大変お世話になりました。

「山では下界の話は禁物だ…」と、三木さんには散々しかられ、山のルールも覚えていきたいと思っています。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本山岳会千葉支部は会員・会友を募集しています。

問い合わせ先

諏訪吉春

携帯

メール

三木雄三

携帯

メール

登山のABC (連載)

第 3 話 歩く

高橋正彦

登山の歩き方は無雪期、岩稜、積雪期、そしてまた、その登りと下りでは全く歩き方が違ってきます。登山は歩く事から始まります。リーダーの責任が一番及ばないのは転倒・踏み外し等による事故です。こればかりは1日に2～3万歩も歩く1歩、1歩までは目が届きません。あくまで自己責任です。しかし、リーダーの責任が零かという、そうではありません。前進中、ふらついているメンバーはリーダーの前に来てもらい観察する必要があります。

オーダーは先頭がサブリーダー、最後尾はリーダーです。大勢の場合は4～5人の間に健脚のメンバーに入ってもらいます。リーダーは参加者全員を掌握し、適切な指示・命令を下します。

参加者はリーダーの指示に従う義務があります。そのようにして無事下山させる責任はリーダーにあり、これもリーダーシップの一部です。メンバーは指示に従い、リーダーの負担にならないよう注意して行動し、互いに協力し、助け合って無事、楽しく下山する努力をすることがメンバーシップです。このように登山は、犠牲的精神を発揮しながらお互いに啓蒙しあい、基本的には自己責任に帰すスポーツです。

歩くときに共通しているのは

- ① まず歩くには登山口で登山靴に変えて、靴紐を締めると気も引き締まり、今日も安全登山で無事戻って来るぞと気合が入ります。

登山靴の靴紐は甲の部分までは靴の中で足に遊びがないように程良くきつく締めます。それから足首にかかるところからは登りでは緩めに締めます。理由は足首が鋭角に曲げる時に窮屈にならないためです。下りでは逆に、一番上の靴紐フックまできつく締めます。理由は下降時に捻挫の防止とつま先を痛めないためです。

- ② スピードは一番体力のないメンバーに合わせる。
- ③ 歩幅は小股で登り下り共通ですが、特に登りでは絶対に大股で歩かないこと（大股は疲れる）。下りでは膝部を横から見て「くの字」に曲げ、膝が受ける衝撃を和らげます。また姿勢は前傾気味として、絶対後傾はいけません。後傾ですとスリップの危険があります。またお尻をつくのも厳禁です。バランスを崩す原因となります。

靴は地面にフラットに着地し、踵から着地するのはスリップのもとになります。

- ④ 歩き方は「ガニマタ」（非日常）を意識して歩くこと、理由は両足を開いた方が自分の足に絡まってつまずくことがない。また摺り足はつまずきのもとです。
- ⑤ 歩き出し30分くらいはゆっくり歩くこと（最初から精一杯ですと体が温まっていないため筋肉の負担も大きい。また、登山は計画通りゆくとは限りません。常に体力を温存すること）。

（続きは次号で）

役員会の報告

11月報告 11月25日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、鈴木、諏訪、三木、谷内、山口、山崎、山本、吉野 9名(敬称略 五十音順)

◎報告事項

- ・秩父宮山岳賞に千葉支部推薦の大澤雅彦氏に決定
- ・山行報告(富山県民ハイク 11.8、荒船山 11.15～11.16)

◎予定

- ・郡界尾根を2年間で実施(本年度は①11.29から②12.20③1.24④3.15)
- ・年次晩餐会 12.6
- ・四支部合同懇談会の準備(下見 12.20、役割分担)
- ・山行予定(大坪山 1.10、手賀沼散策 1.17等)

◎検討事項

- ・27年度海外山行について
- ・会員、会友の増強について

12月報告 12月17日(水) 千葉市 美弥和

出席者 岩尾、小澤、諏訪、三木、谷内、山崎、山本、湯下、吉野、渡邊 10名

◎検討事項 新日本山岳誌の改訂について

役員会終了後、支部忘年会実施 参加者 20名

1月報告 1月27日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、坂上、鈴木、諏訪、三木、谷内、山口、山崎、山本、湯下、吉野 11名

◎報告及び連絡事項

- ・年次晩餐会及び全国支部長会議について(12.6)
- ・改訂新日本山岳誌 千葉支部 16山担当
- ・四支部合同懇談会準備について
- ・郡界尾根実施報告(11.29 12.20 1.24)

◎予定

- ・晴香園引率登山 2.21 行先変更(高川山→陣馬山)

2月報告 2月17日(火) 市川アイリンク

出席者 小澤、鈴木、諏訪、三木、安間、谷内、山口、山崎、湯下、吉野 10名

◎報告及び連絡事項

- ・四支部合同懇談会(館山市 2.7～2.8)
参加者 37名(森会長、栃木 4名、茨城 5名、群馬 5名、千葉 21名)
房大山登山コース 22名、お花畑見学コース 11名
- ・新日本山岳誌改訂 千葉支部 16山担当 3月中に取り纏め
- ・晴香園引率登山(陣馬山 2.21)
- ・27年度総会準備(5.24 京葉銀行文化プラザ)

◎予定

- ・軍荼利山 3.1
- ・高峰&黒斑山 3.7～3.9
- ・郡界尾根 3.15
- ・全国支部懇(四国支部) 4.11～4.12
- ・大平山(栃木) 4.18

お知らせ

新入会友 廣村恵美子（ひろむらえみこ）さん。

「山の日」フォーラムのご案内

「山の日」スタートを来年に控え、3月28日(土)～29日(日)の2日間、東京・有楽町の東京国際フォーラムで「全国『山の日』フォーラム、みんなで山を考えよう」が開催される。

28日は「『山の日』と地方創生」、29日は「『山の日』と山と自然の安全」をテーマにエコ・ツーリズムやロングトレイル、森づくりの新しい動きなどの報告やパネル討論がある。

広場にステージやオブジェ、クライミングボードなどを設置して人々の関心を集め、田部井淳子さん、三浦雄一郎・エミリさん親子、片山右京さん、野口健さんらのトークショーも予定している。ロビーでは安全登山のための装備・衣料の展示のほか、登山やエコ・ツーリズムの案内を提供。山岳の映画、山小屋の映像なども上映する。

主催は「全国『山の日』フォーラム実行委員会」で、日本山岳会はその主要なメンバーとして会員・会友の多数の参加を呼びかけている。詳細は全国「山の日」協議会のホームページ参照。



千葉支部だよりをカラー画面で

日本山岳会のホームページ (jac.or.jp) から、千葉支部だよりをカラーでご覧いただけます。アクセスの手順、「日本山岳会」のホームページを開き、

「日本山岳会の活動内容」→「支部」→「千葉支部」→「千葉支部だより一覧」と進む。

「2015年度千葉支部通常総会」のお知らせ

下記の通り、第8回通常総会を開催します。この総会は2014年度事業並びに決算報告、2015年度事業並びに収支予算計画などをご審議いただく重要な総会です。追って詳しいご案内を差し上げる事としておりますが、今からご予約をお願いします。

また、総会終了後はいつものように懇親会を予定しております。

記

- | | |
|----------|---------------------------------|
| 総会開催日 | 2015年5月24日(日) |
| | 10:00～12:00 京葉銀行文化プラザ 7階(椿) |
| (1)総会審議 | 10:00～11:00 |
| (2)記念講演会 | 11:10～12:00 |
| | 講師：坂上光恵氏 演題：「私の高峰登山」 |
| | (日本山岳会千葉支部会員 会員番号9879) |
| (3)懇親会 | 13:00～15:00 居酒屋 美弥和 (会場は別、バス利用) |

山 行 の 予 定

(4月以降、支部行事等含)

行 き 先	日 程	申 込 先	締 切	備 考
全国支部懇談会 (香川県高松市)	4. 11 (土) 12 (日)	四国支部へ直接	締切終了	
栃木大平山	4. 18 (土)	柳川しげよ	4. 11 (土)	花見登山
三ツドッケ	5. 9 (土)	三木雄三 —	4. 25 (土)	山頂付近ではツツジが美しい
支部総会	5. 24 (日)	(詳細 12 ページ)		京葉銀行文化プラザ「椿の間」
西沢溪谷	6. 6 (土)	山口文嗣	5. 29 (金)	笛吹川上流 シャクナゲの咲く溪谷
関大塚山 高溝溪谷	7. 4 (土)	山口文嗣	6. 20 (土)	房総の山と溪谷 歩き
平標山 仙ノ倉山	9. 12 (土) ～13 (日)	山口文嗣	8. 29 (土)	平標小屋泊



千葉県許諾 A973-1 号

(編集後記)

「支部だより 30 号」をお届けします。回数的には、一つの節目となる支部だよりです。

編集にあたって、原則として一つの下稿は一つのページに納め、写真やイラスト多く載せて読みやすく親しみやすいものになるよう努めているところです。

ご意見や感想をお聞かせください。

「支部だより」が会員・会友の交流の場としての役割を果たせるよう更なる充実を目指して参ります。

(S Y 生)

追 憶 シ ャ モ ニ ー

岩尾富士夫

7月、着いたら雨模様で肌寒い。グーテ小屋の予約が取れなく、スネルスポーツの神田さんいわく、これから晴れてくる、更にシーズン中いつもいっぱいなので、いっちゃって何とか頼み込めという。ガイドレスは不利のようだ。ミディで高度順化し、初日はニ・デーグルからテート：ルース小屋をめざす。小屋のマスターにお願いし交渉成功。翌日グラン・クーロアールを無事横断しパイヨ岩稜に取り付く。岩と雪のミックスで上がるほど傾斜が強くなる。グーテ小屋の上の雪稜からはシャモニーの町、ミディ針峰、ドームが望め、明日のルートも明確である。翌朝、満天の星の中を登りだし、ドームで日の出を迎える。バロ避難小屋からコブを巻いていくと、頂陵に突き上げるスノーリッジに出てザイルをだす。両側のはるか下に氷河が見え高度感抜群で慎重に進む。ここを過ぎると頂上は近く、再びスノーリッジになって傾斜が落ち、まあいいモン・ブランの頂上に着いた。眼下には北西に往路のドームからのボス山陵がせり上がり、北にモン・モディ、タキュル、ミディその右手遠方にヴァルト針峰群が氷河を囲むように立ち、イタリア側は岩の峰々が連なる、まさに絶景である。



これで肩の荷が下りハイキングが楽しい。高山植物が色とりどりに咲き誇り目を潤す。モンタンヴェールでは雄大なメール・ドゥグラス氷河の対岸にドリュが聳え、目を転ずるとグラン・シャルモの北壁が仰げる。氷河をくりぬいた観光トンネルもある。花のレストラン・フローリアがお勧め。花で飾られた小さなレストランでシャモニーから歩いてもそれほどかからない。シャモニーの対岸2000mにあるプランプラは、モン・ブラン山群の大展望台でテレキャビンで上がる。ここからハイキングコースがのびている。色とりどりのパラグライダーが舞っているのが見られるかもしれない。

ここには魅力的な山々があるが、我々に手が届くのは少ない。いつか登りたいと思い続ける今日この頃です。



(写真右上) 左の高みがモン・ブランの頂き
(写真左下) モン・ブラン山頂からの展望、
一番左下のピークがミディ針峰
でロープウェイで上がれる